

普正寺の森（金沢市）の鳥類相と種数の経年変化—1990～2021年の記録—

手井修三

Annual changes of the bird species recorded from 1990 to 2021 in Fushoji Wood (Kanazawa City, Japan)

Shuzo TEI

要旨

石川県金沢市の日本海に面し、連続した海岸保安林の一部（通称:普正寺の森、面積0.71 km²）において、1990年3月10日から2021年12月31日（のべ4,009日）に、鳥類相と種数の経年変化を調査した。日本野鳥の会石川支部（1998）の1977～1997年のデータも含め、20目63科298種の野鳥を記録した。野鳥の目別の種数比率が高かったのは、スズメ目（131種44.0%）、チドリ目（57種19.1%）、カモ目（28種9.4%）であった。カモメ科とウミスズメ科を除くチドリ目では、2000～2002年に種数の減少が際立ったが、他目の種数には大きな経年変化はなかった。2005～2016年度にかけてクロマツは大量伐採されたが、大量伐採前に比較して利用種数（樹木等に止まった種数）は、年平均9.5%増加した。

キーワード：普正寺の森 鳥類相 経年変化 金沢市 健民海浜公園

Key words: Fushoji Wood, bird fauna, annual change, Kanazawa City, Kenmin Seaside Park

はじめに

鳥類は飛行生活に高度に適応し、行動範囲が広く生息域も多様である。また、形態形質と生態の多様性も生息環境と密接な関係がある。したがって、生息環境の特徴や収容力は、その鳥類相や個体数に反映され、これらを規定しているともいえる（千葉, 2016）。

普正寺の森（石川県金沢市）は全国的に有名な探鳥地であり、特に春秋の渡りの時期には多種の野鳥が観察される。そのため、全国から多くのバードウォッチャーが訪れ、県内外のグループの探鳥会や探鳥ツアー等にも利用されている。1990年には常陸宮殿下ご臨席のもと、「全国野鳥保護のつどい」の会場にもなった。さらに、1998年1月に石川県によ

り「野鳥の森」として指定された。

このように全国的に有名な探鳥地であるにもかかわらず、これまでに普正寺の森で観察された鳥類について、普正寺の森を含む健民海浜公園の1977～1997年までの野鳥リスト（日本野鳥の会石川支部, 1998）と普正寺の森の1990～2013年までの年別の野鳥リスト（手井, 2014）はあるが、経年変化は示されていない。さらに、2013年以前の追加記録や2014年以降の記録、外来種の報告はなく、基礎情報として不十分である。2005～2016年度にかけて松くい虫対策のために、高木の優占種であったクロマツ *Pinus thunbergii* が大量に伐採され、落葉広葉樹が多い針広混交林に変化した。そのため、長期間の観察記録により、環境変化に対する鳥類相の経年変化を

とらえられる稀有な場所でもある。

本研究では普正寺の森における、1990年3月から2021年12月までの鳥類相と種数の記録と、過去の文献記録をまとめ、経年変化を示すことを目的とした。また、クロマツの大量伐採が種数等の経年変化に与える影響も考察した。

調査地と調査方法

調査地は石川県金沢市の日本海に面し、連続した海岸保安林の一部（通称：普正寺の森 36°35'14" - 36°36'4" N, 136°34'42" - 136°35'21" E）である（図1）。面積は0.71 km²で、そのうち65%は健民海浜公園に含まれている。標高は0~18 mである。調査地には、大規模な病院、プール（健民海浜プール）、駐車場、サッカー場、民家25軒、小規模な工場や神社も含まれる。1983~1999年には石川県野鳥園（1.4 ha）が開設されていた。普正寺の森の西側は日本海で、東側には2級河川（犀川）がある。また、普正寺の森の周辺1 km以内は、住宅用地、水田、工業用地が多く、畑、簡易サッカー場や観客席のあるソフトボール場、中学校や大型の店舗等もある。

1990~2006年頃の植生は、高木では成熟したクロマツが優占種で、ハリエンジュ *Robinia pseudoacacia*, エノキ *Celtis sinensis*, オニグルミ *Juglans mandshurica* 等、低木にはコマユミ *Euonymus alatus*, キンギンボク *Lonicera morrowii* 等が混在していた。林床はジャノヒゲ *Ophiopogon japonicus*, ハマダイコン *Raphanus sativus*, コバンソウ *Briza maxima* 等に密に覆われ草本層も発達していた。しかし、松くい虫対策のためにクロマツ（多くは高木）は、2005~2016年度に合計11,836本が伐採された。特に、2007年度には3,050本、2008年度は2,340本の大量伐採が行われた（図2）。そのために森は一時期明るい箇所も多くなった。その後、2011年頃以降の高木は、エノキを優占種とし、ハリエンジュ、ニワウルシ *Ailanthus altissima*, クマノミズキ *Cornus macrophylla* 等の落葉広葉樹が多い針広混交林に変化した。また、クロマツの伐採地周辺は、コマユミやキンギンボク等の低木が増加した。

調査は主に普正寺の森の内部に設けた高頻度調査域（28.7 ha）で行った（図1）。林内の遊歩道等の延長4.2 kmを歩き調査した。調査日数は月平均10.5

± 3.4日（平均 ± 標準偏差）（範囲3-24, n=4,009）である。調査期間は1990年3月10日から2021年12月31日である。記録には約60倍の望遠鏡を用いて、普正寺の森から観察された周辺の鳥類も含めた。また、多くのバードウォッチャー等から情報を集めた。樹木・地上・建物・電線等（普正寺浜・池等を含み、日本海・河川・防波堤等は除く）に止まった種（以下、利用種）も記録した。

日本鳥類目録（改訂第7版）のPart A日本鳥類目録（日本鳥学会、2012）に記載されており、自然分布等からも本調査地の野鳥の記録として適正である種（以下、野鳥）を表1に掲載した。ただし、日本野鳥の会石川支部（1998）の1977~1997年の普正寺の森を含んだ健民海浜公園の野鳥の記録も含めた。なお、アビ科のオオハムとシロエリオオハムは、遠くからの観察では同定が困難であることが多い。そのため、アビおよび、オオハムまたはシロエリオオハムの記録がある年には、アビおよびアビ類の記録として種数に含めた。表1に含まれた種以外で、自然分布等からも本調査地の野鳥の記録として適正でない種、および家禽（以下、外来種等）は表2に掲載した。

結果と考察

1990年3月10日から2021年12月31日までに、20目61科284種の野鳥が記録された（以下、特記のない種数は野鳥を示す）。日本野鳥の会石川支部（1998）の1977~1997年の普正寺の森を含んだ健民海浜公園の記録を含めると20目63科298種（表3）、利用種は17目54科240種（表1）、外来種等は4目6科7種であった（表2、4）。1991~2021年の年平均種数は、153.8 ± 12.7種（平均 ± 標準偏差）であった（図2、表3）。高木の優占種がクロマツであった1991~2004年と、クロマツの大量伐採が始まった2005年以降の年平均種数の比較では、それぞれ143.3 ± 8.3種、162.5 ± 8.3種であり、平均値では大量伐採後に13.4%増加した。1991~2004年の14年間では140種以下が6か年あり、160種以上は記録されなかった。一方、2005年以降の17年間には140種以下はなく、160種以上が10か年記録された（図2、表3）。

春秋の渡りの時期には、特に多種の野鳥が記録さ



図1 調査地 国土地理院電子地形図を加工して作成。

れた。調査日あたりの種数の上位は、春期には2013年5月12日の75種、2009年5月5日の70種、2011年5月4日の70種、秋期には2017年11月3日の68種、2006年11月18日の63種、2010年11月14日の63種であった。巣内雛および巣立ち雛の記録のある種は13種、巣内雛の記録はないが巣立ち雛の記録のある種は20種であった（表1）。なお、巣立ち雛には早成性鳥類の雛も含む。

環境省レッドリスト2020（環境省，2020）におけ

る、絶滅危惧IA類は3種、絶滅危惧IB類は6種、絶滅危惧II類は20種、準絶滅危惧は17種が記録された（表1）。また、いしかわレッドデータブック2020（石川県，2020）における、絶滅危惧I類は8種、絶滅危惧II類は14種、準絶滅危惧種は27種が記録された（表1）。

(1) 経年変化について顕著な増減を記録した種

情報不足と思われる種を除き、近年、記録される

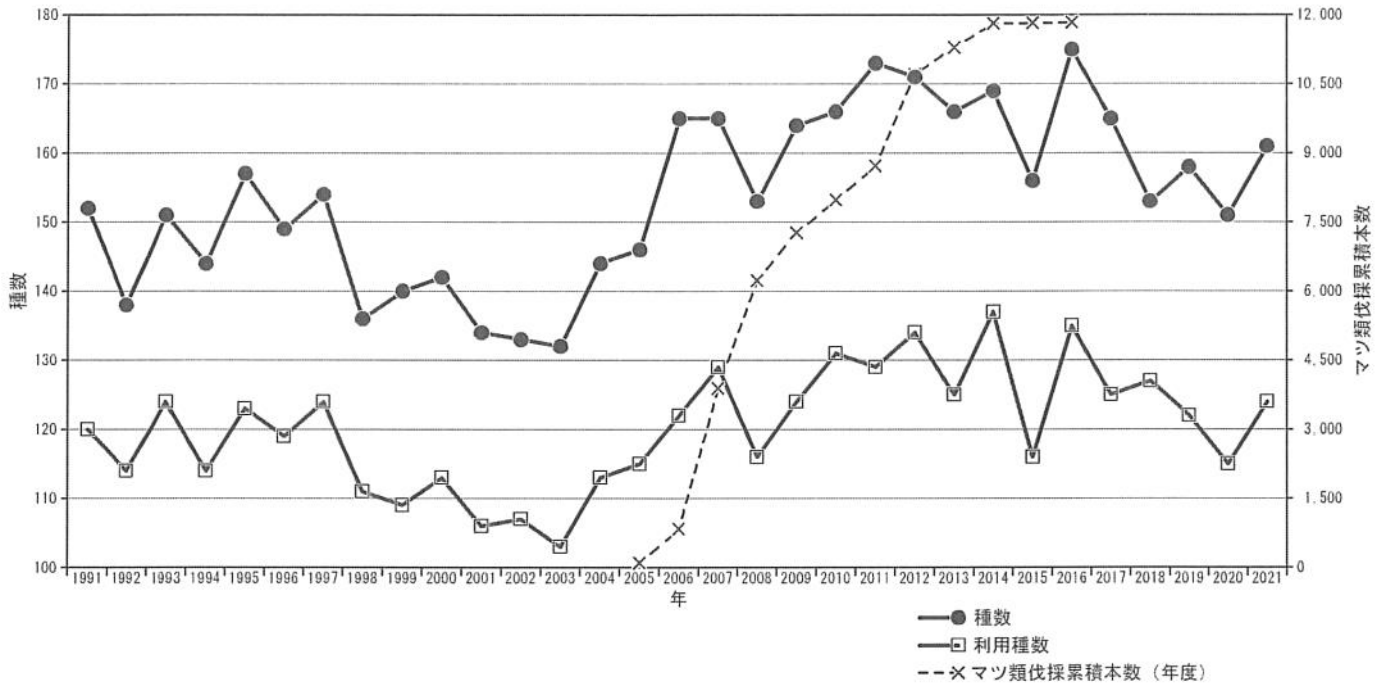


図2 普正寺の森における野鳥の種数，利用種数，マツ類伐採累積本数の経年変化

年が特に増加している種は，カワアイサ（1990～2004年は15年のうち4年に記録，2005年以降は17年のうち15年に記録），ミゾゴイ（1990～2008年は記録なし，2009年以降は13年のうち7年に記録），ダイゼン（1990～2004年は記録なし，2005年以降は17年のうち9年に記録），アリスイ（1990～2006年は17年のうち3年に記録，2007年以降は15年のうち14年に記録），コウライウグイス（1990～1999年は記録なし，2000年以降は22年のうち14年に記録），シロハラホオジロ（1990～2003年は14年のうち3年に記録，2004年以降は18年のうち16年に記録）であった（表3）。

一方，特に減少している種は，シノリガモ（1990～1996年は毎年記録，1997年以降は25年のうち2年に記録），アカモズ（1990～2002年は13年のうち12年に記録，2003年以降は19年のうち3年に記録），コシアカツバメ（1990～1999年は毎年記録，2000年以降は22年のうち5年に記録）であった（表3）。

(2) 目別種数

目別の種数比率は，スズメ目（131種）がもっとも高く44.0%，次にチドリ目（57種）19.1%，カモ目（28種）9.4%であった（表5）。目別の種数比率を，本調査地と石川県全域（日本野鳥の会石川，

2021）と比較すると，本調査地ではスズメ目が最大で2.4%高く，ミズナギドリ目が最小で1.9%低かったが，本調査地と石川県全域では著しい違いはなかった。舩倉島（日本野鳥の会石川，2021）との比較では，カモ目が最大で2.4%高く，スズメ目が最小で5.8%低かった。河北潟（川原・中川，2017）との比較では，スズメ目が最大で8.3%高く，チドリ目が最小で3.8%低かった。明治神宮（東京都）（日本野鳥の会東京，2016）との比較では，チドリ目が最大で18.0%高く，スズメ目が最小で14.5%低かった（表5）。

目別の種数の経年変化は，カモメ科とウミスズメ科を除くチドリ目では2000～2002年に，他目の経年変化に比較すると種数の減少が際立った（図3）。チドリ目のチドリ科とシギ科は，普正寺の森の南側の砂浜から海岸へ流れる排水路で採食している個体が時々観察された。しかし，2000～2002年は排水量の少ない日が多く，種数が減少した要因の一つと考えられる。

(3) 利用種

高木の優占種がクロマツであった1991～2004年と，クロマツの大量伐採が始まった2005年以降の利用種の比較では，それぞれ114.3 ± 6.9種，125.2 ±

普正寺の森（金沢市）の鳥類相と種数の経年変化

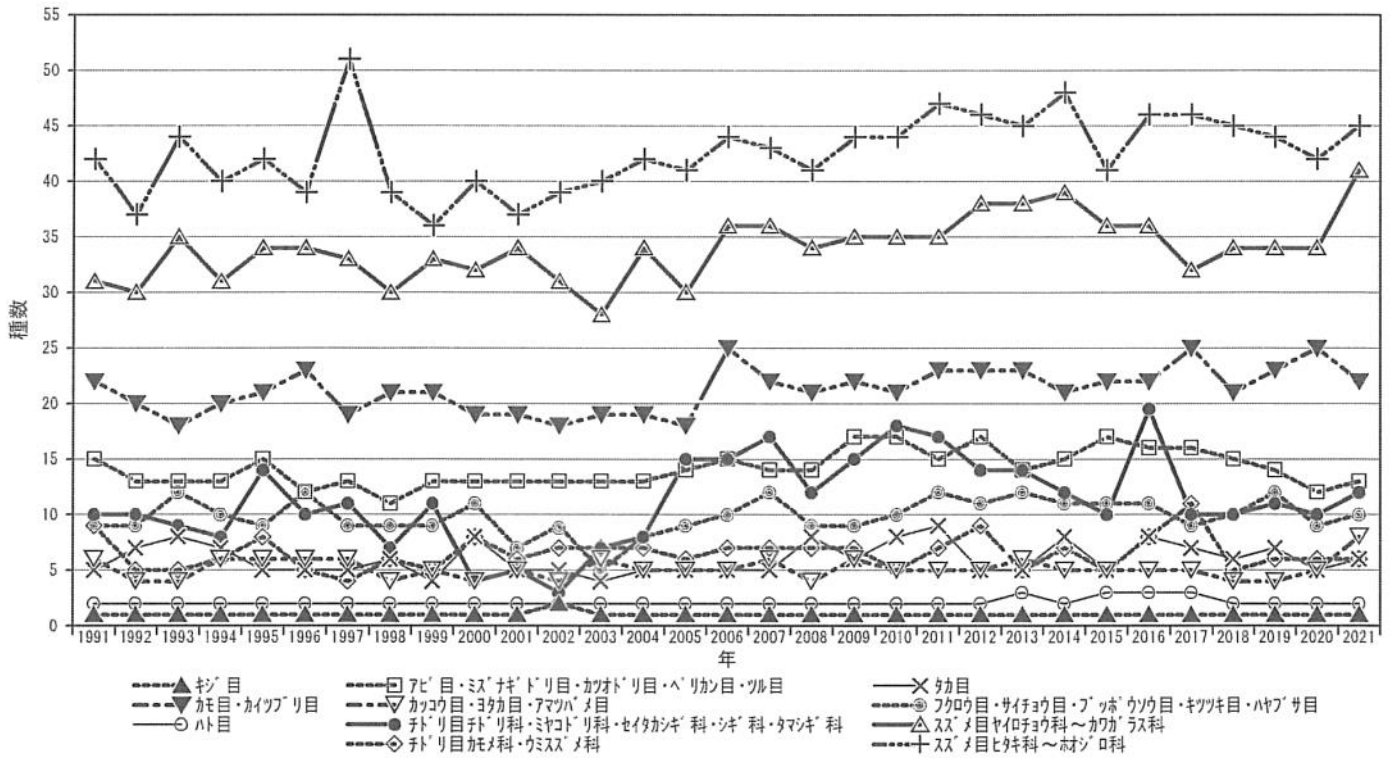


図3 普正寺の森における野鳥の目別種数の経年変化

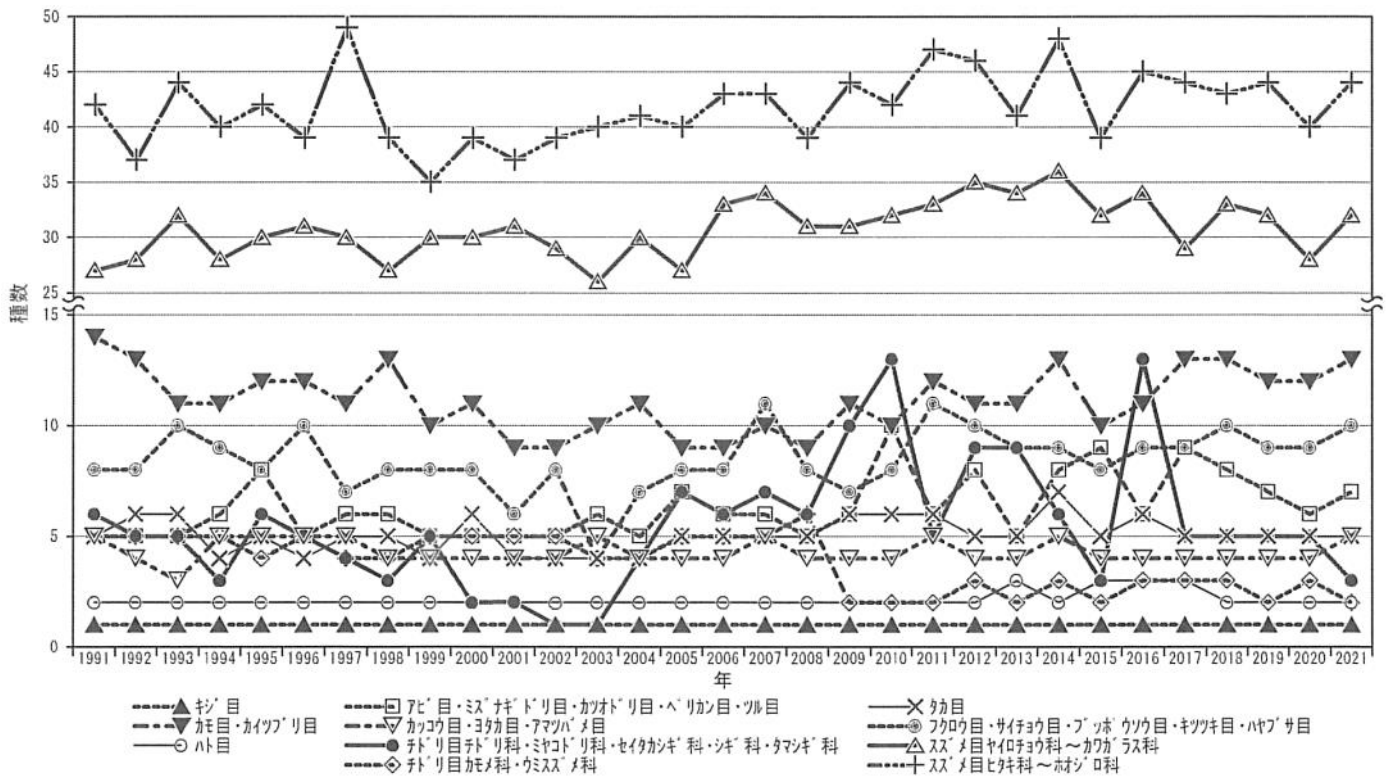


図4 普正寺の森における野鳥の利用種目別種数の経年変化

6.8種であり、平均値では大量伐採後に9.5%増加した(表6)。利用種の種数が10種以上であったカモ目(20種)、ペリカン目(11種)、チドリ目(40種)、スズメ目(126種)では、カモ目(-7.2%)は減少し、ペリカン目は変化なく、チドリ目(22.6%)とスズメ目(8.5%)は増加した。また、その他の目で減少したのはヨタカ目とフクロウ目であるが、種数の少ない目(それぞれ1種と5種)であった。さらに、目別の最大種数の差は2種減から5種増で、最小種数の差でも1種減から2種増であり、著しい変化はなかった。目別の種数比率についても、カモ目の1.5%減少からツル目の1.0%増加が、もっとも大きな変化であり、鳥類相にも大きな変化はなかった(図4, 表6)。

1995年頃よりデジタルカメラが普及し、2000年頃には多くのバードウォッチャーが使用するようになり、本調査地でも鳥類の種同定はかなり容易になった。また、本調査地でのバードウォッチャーは1990年代に比較すると、2000年代以降は徐々に増加している。しかし、これらを考慮しても1991~2004年と、クロマツの大量伐採が始まった2005年以降では利用種の大きな経年変化はなかったと考えられる。また、スズメ目は樹木を利用する種も多く、高木のクロマツの大量伐採により、もっとも影響を受けると考えられるが、種数に大きな経年変化はなかった。スズメ目は低木や草本を利用する種も多いが、低木や草本に大きな変化がなかったのも要因と考えられる。これらの経年変化は、高木のクロマツが大量に伐採され、落葉広葉樹の多い針広混交林に変化しても、低木や草本の植生に大きな変化がなければ、鳥類相や利用種の種数に、著しい経年変化は生じないことを示唆していると考えられる。

(4) 普正寺の森と国内各地域の野鳥種数の比較

国内各地域の野鳥の種数を、書籍やインターネット等で調べるとともに、全国の多くの方から各地域の種数の情報を多数えた。著者の知見では、石川県内で普正寺の森(調査期間:1977年以降)以外に、野鳥の種数が200種を超える地域は、大聖寺川下流域204種(調査期間:1984年以降)(日本野鳥の会石川支部, 1998)、片野鴨池209種(調査期間:

2002年以前)(大畑ほか, 2002)、七尾西湾253種(調査期間:不明)(日本野鳥の会石川支部, 1998)、河北潟283種(調査期間:1963年~2017年5月)(川原・中川, 2017)、舳倉島373種(2017年以前)(日本野鳥の会石川, 2021)である。

海に面していない8県の県全域の野鳥の記録は、山梨県269種(調査期間:2019年以前)(日本野鳥の会甲府支部, オンライン)、奈良県276種(調査期間:2021年12月26日以前)(日本野鳥の会奈良支部, オンライン)、栃木県293種(調査期間:1946年1月~2000年7月)(栃木県自然環境調査研究会鳥類部会, 2001)、長野県308種(調査期間:1979~2011年)(日本野鳥の会長野支部, 2012)、岐阜県310種(調査期間:不明)(日本野鳥の会岐阜, 2016)、滋賀県310種(調査期間:2015年10月31日以前)(日本野鳥の会滋賀, 2015)、群馬県328種(調査期間:2019年8月以前)(日本野鳥の会群馬, 2020)、埼玉県347種(調査期間:1978年4月~2020年2月)(日本野鳥の会埼玉, オンライン)である。

北海道・本州・四国・九州の4島(沖縄本島・対馬・舳倉島等の小さな島を除く)において、調査範囲10 km²以下の野鳥の種数が多い地域は、曾根干潟(福岡県)237種(調査期間:1977年以降)(武下, 2017)、和白干潟(福岡県)240種(調査期間:1980~2018年)(和白干潟を守る会, オンライン)、大阪南港野鳥園(大阪府)250種(調査期間:1983年~2020年5月)(大阪南港野鳥園, オンライン)、蒲生干潟(宮城県)276種(調査期間:1971年以降)(佐場野, 2014)である。

また、上記の条件で調査範囲100 km²以下の野鳥の種数が多い地域は、クッチャロ湖およびベニヤ原生花園(北海道)290種(調査期間:不明)(大橋, 2014)、今津(福岡県)304種(調査期間:1997年5月1日以前)(岡部, 1997)、霧多布湿原周辺(北海道)309種(調査期間:1974~2003年)(片岡義廣, オンライン)、春国岱および風蓮湖(北海道)339種(調査期間:2013年度以前)(根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター, オンライン)である。なお、これらの8か所の地域は、野鳥の種数が多い干潟および湖や湿原が調査地内に含まれている。

各地域で調査期間、調査人員や調査頻度等が異なり、比較には問題点もあるが、普正寺の森やその周辺には干潟および湖や湿原がなく、面積（0.71 km²）も狭いにもかかわらず、298種もの野鳥が記録されている。これは野鳥の生息地として極めて貴重な地域であることを示唆している。普正寺の森には、木本や草本の種子植物の種数も多く、暗い森、明るい林、草地、芝生等、植生の多様性も高く、林内には人工の小川（延長210 m）や池（1.1 haおよび0.1 ha）もある。森周辺には日本海、2級河川（犀川）、水田、畑、住宅地等、様々な環境が隣接している。これらが普正寺の森で多種の野鳥が観察される要因と考えられる。

謝辞

石川県立大学北村俊平氏、石川県立自然史資料館館長中村浩二氏、石川県立自然史資料館副館長中野真理子氏には、本論文作成にあたり多くの適切なご助言をいただいた。観察記録は非常に多くの方々よりいただいた。特に、浅井勝彦、石塚徹、木谷芳史、小森外茂男、竹田伸一、田中秀雄、長井 晃、中本 聡、中山博史、宝代健二、森川博一諸氏には貴重な観察記録を多くいただいた。これらの方々のご好意とご配慮に感謝の意を表します。

引用文献

- 石川県（2020）．いしかわレッドデータブック2020 動物編．石川県生活環境部自然環境課（編）．339pp.
- 環境省．環境省レッドリスト2020．（オンライン）
<https://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf>,
参照2021-12-31.
- 片岡義廣．霧多布の野鳥リスト(1974～2003)．（オンライン）
<http://aigokai.org/wordpress/06guide/kiritappu.htm>, 参照2021-12-31.
- 川原奈苗・中川富男（2017）．1963年から2017年5月までに河北潟で確認された鳥類の一覧．河北潟総合研究20：33-43.
- 根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター．風蓮湖・春国岱で記録されている野鳥のリスト．（オンライン）
http://www.marimo.or.jp/~nemu_nc/workn/image/body/nature-birdlist.pdf,
参照2021-12-31.
- 日本野鳥の会岐阜（2016）．岐阜県鳥類目録改訂版2016．日本野鳥の会岐阜，岐阜，121pp.
- 日本野鳥の会群馬（2020）．群馬県鳥類目録 改訂版．日本野鳥の会群馬，群馬，94pp.
- 日本野鳥の会石川（2021）．石川野鳥年鑑 2017．日本野鳥の会石川，金沢，110pp.
- 日本野鳥の会石川支部（編）（1998）．石川の自然環境シリーズ 石川県の鳥類．石川県環境安全部自然保護課，金沢，183 pp.
- 日本野鳥の会甲府支部．山梨県内で確認された鳥類の目録 2020年版．（オンライン）
<http://kawasemi1971.web.fc2.com/yamanasi-tyourui-mokuroku.htm>, 参照2021-12-31.
- 日本野鳥の会長野支部（2012）．信州の野鳥．日本野鳥の会長野支部，長野，241pp.
- 日本野鳥の会奈良支部．奈良県産鳥類目録．（オンライン）
<https://wbsj-nara.jimdo.com/奈良県の鳥類目録/>，参照2021-12-31.
- 日本野鳥の会埼玉．埼玉県鳥類リスト．（オンライン）
<http://www.wbsj-saitama.org/kennai-2.html>,
参照2021-12-31.
- 日本野鳥の会滋賀（2015）．におのうみ43．日本野鳥の会滋賀，守山，128 pp.
- 日本野鳥の会東京（2016）．東京の野鳥たち ～月例探鳥会7か所・20年間の記録～．日本野鳥の会東京，東京，129pp.
- 大橋弘一（2014）．北海道の探鳥地ベスト10．BIRDER 28(2): 17. 文一総合出版，東京.
- 大畑孝二・中川直之・山本芳夫（編）（2002）ラムサール条約登録地片野鴨池の管理計画及び生物調査に関する調査報告書．日本野鳥の会，東京，141pp.
- 大阪南港野鳥園．大阪南港野鳥園出現鳥種．（オンライン）
http://www.osaka-nankou-bird-sanctuary.com/o.n.b.s_web/birdwating/enshutsugenlist.htm, 参照2021-12-31.

- 岡部海都(1997). 福岡市今津のタヒバリ類.
BIRDER 11(9): 75. 文一総合出版, 東京.
- 佐場野裕(2014). 東北の鳥たちは今 蒲生干潟.
BIRDER 28(4): 72. 文一総合出版, 東京.
- 武下雅文(2017). 曾根に魅せられて. ALULA54:
1.
- 手井修三(2014). 普正寺の森鳥類リストー1977～
2013年の記録ー. 石川野鳥年鑑2013: 228-231.
- 千葉 晃(2016). 越後平野の潟湖と野生鳥類の生
活. 新潟市 地域・魅力創造部 潟環境研究所事
務局. 新潟市潟環境研究所研究成果報告書: 82
-100.
- 栃木県自然環境調査研究会鳥類部会(編)
(2001). 栃木県自然環境基礎調査とちぎの鳥
類. 栃木県林務部自然環境課, 栃木, 255pp.
- 和白干潟を守る会. 和白干潟を守る会ホームペー
ジ. (オンライン)
[http://wajirohigata.sakura.ne.jp/wajirohigata
towa.html](http://wajirohigata.sakura.ne.jp/wajirohigata_towa.html), 参照2021-12-31.

表1. 普正寺の森における野鳥の種名リスト.

目名	科名	NO.	種名	学名	利用	絶滅のおそれのある野生物の種のリスト	いしかわレッドデータブック 2020
キジ目	キジ科	1	ウズラ	<i>Coturnix japonica</i>	×	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	
		2	キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	●	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	
カモ目	カモ科	3	ヒシクイ	<i>Anser fabalis</i>	×	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類
		4	マガガン	<i>Anser albifrons</i>	●	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類
		5	コクガン	<i>Branta bernicla</i>	?	準絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	
		6	コハクチョウ	<i>Cygnus columbianus</i>	●	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	
		7	ツクシガモ	<i>Tadorna tadorna</i>	×	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	
		8	オシドリ	<i>Aix galericulata</i>	●	情報不足 (DD)	準絶滅危惧種
		9	オカヨシガモ	<i>Anas strepera</i>	●		
		10	ヨシガモ	<i>Anas falcata</i>	●		
		11	ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>	●		
		12	アメリカヒドリ	<i>Anas americana</i>	×		
		13	マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	●		
		14	カルガモ	<i>Anas zonorhynchos</i>	●		
		カイツブリ目	カイツブリ科	15	ハシビロガモ	<i>Anas clypeata</i>	●
16	オナガガモ			<i>Anas acuta</i>	●		
17	シマアジ			<i>Anas querquedula</i>	●		
18	トモエガモ			<i>Anas formosa</i>	●	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類
19	コガモ			<i>Anas crecca</i>	●		
20	オオホシハジロ			<i>Aythya valisineria</i>	●		
21	ホシハジロ			<i>Aythya ferina</i>	●		
22	キンクロハジロ			<i>Aythya fuligula</i>	●		
23	スズガモ			<i>Aythya marila</i>	●		
24	シノリガモ			<i>Histrionicus histrionicus</i>	×		準絶滅危惧種
カイツブリ目	カイツブリ科	25	ビロードキンクロ	<i>Melanitta fusca</i>	×		準絶滅危惧種
		26	クロガモ	<i>Melanitta americana</i>	?		準絶滅危惧種
		27	ホオジロガモ	<i>Bucephala clangula</i>	×		準絶滅危惧種
		28	ミコアイサ	<i>Mergellus albellus</i>	●		
		29	カワアイサ	<i>Mergus merganser</i>	●		
		30	ウミアイサ	<i>Mergus serrator</i>	●		
		31	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	●		
カイツブリ目	カイツブリ科	32	アカエリカイツブリ	<i>Podiceps grisegena</i>	×		
		33	カンムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>	●		

目名	科名	NO.	種名	学名	利用	果内雛・巢立ち雛(巣立ち雛には早成性鳥類の雛も含む)(調査地内での繁殖は問わない)	絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト	いしかわレッドデータブック 2020
カイツブリ目	カイツブリ科	34	ミミカイツブリ	<i>Podiceps auritus</i>	×			
		35	ハジロカイツブリ	<i>Podiceps nigricollis</i>	×			
ハト目	ハト科	36	カラスバト	<i>Columba janthina</i>	●		準絶滅危惧 (NT)	
		37	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	●	果内雛・巢立ち雛		
		38	アオバト	<i>Treeron sieboldii</i>	●			
アビ目	アビ科	39	アビ	<i>Gavia stellata</i>	×			
		40	オオハム	<i>Gavia arctica</i>	×			
		41	シロエリオオハム	<i>Gavia pacifica</i>	×			
		42	ハシジロアビ	<i>Gavia adamsii</i>	?			
ミズナギドリ目	ミズナギドリ科	43	オオミズナギドリ	<i>Calonectris leucomelas</i>	×			
	ウミツバメ科	44	コシジロウミツバメ	<i>Oceanodroma leucorhoa</i>	?			
カツオドリ目	グンカンドリ科	45	オオグンカンドリ	<i>Fregata minor</i>	×			
		46	コグンカンドリ	<i>Fregata ariel</i>	×			
	ウ科	47	ヒメウ	<i>Phalacrocorax pelagicus</i>	×		絶滅危惧 I B類 (EN)	
		48	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	●			
		49	ウミウ	<i>Phalacrocorax capillatus</i>	×			
ペリカン目	サギ科	50	サンカノゴイ	<i>Botaurus stellaris</i>	●		絶滅危惧 I B類 (EN)	絶滅危惧 I 類
		51	ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis</i>	×		準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧 I 類
		52	ミノゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i>	●		絶滅危惧 II 類 (VU)	絶滅危惧 II 類
		53	ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	●			
		54	ササゴイ	<i>Butorides striata</i>	●	巢内雛・巢立ち雛		準絶滅危惧種
		55	アカガシラサギ	<i>Ardeola bacchus</i>	●			
		56	アマサギ	<i>Bubulcus ibis</i>	●			
		57	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	●	巢内雛・巢立ち雛		
		58	ダイサギ	<i>Ardea alba</i>	●			
		59	チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>	●		準絶滅危惧 (NT)	
		60	コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	●			
		61	クロサギ	<i>Egretta sacra</i>	●			準絶滅危惧種
ツル目	ツル科	62	カラシラサギ	<i>Egretta euphotes</i>	×		準絶滅危惧 (NT)	
		63	クロツル	<i>Grus grus</i>	×		情報不足 (DD)	
	クイナ科	64	クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>	●		情報不足 (DD)	
		65	シロハラクイナ	<i>Amaurornis phoenicurus</i>	?			
		66	ヒクイナ	<i>Porzana fusca</i>	×		準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧 I 類 準絶滅危惧種
		67	ハン	<i>Gallinula chloropus</i>	●			
		68	オオバン	<i>Fulica atra</i>	●			
カッコウ目	カッコウ科	69	カンムリカッコウ	<i>Clamator coromandus</i>	●			
		70	ジュウイチ	<i>Hierococcyx hyperythrus</i>	●			情報不足
		71	ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	●			
		72	セグロカッコウ	<i>Cuculus micropterus</i>	●			
		73	ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>	●			
		74	カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>	●	繁殖記録あるが雛は不明		準絶滅危惧種
ヨタカ目	ヨタカ科	75	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	●		準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧 II 類

普正寺の森（金沢市）の鳥類相と種数の経年変化

目名	科名	NO.	種名	学名	利用	巢内雛・巣立ち雛(巣立ち雛には早成性鳥類の雛も含む)(調査地内での繁殖は問わない)	絶滅のおそれのある野生生物の種々のリスト	いしかわレッドデータブック 2020	
アマツバメ目	アマツバメ科	76	ハリオアマツバメ	<i>Hirundapus caudacutus</i>	?			情報不足	
		77	アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	×			情報不足	
チドリ目	チドリ科	78	ヒメアマツバメ	<i>Apus nipalensis</i>	×				
		79	タゲリ	<i>Vanellus vanellus</i>	×				
		80	ケリ	<i>Vanellus cinereus</i>	×		情報不足(DD)		
		81	ムナヅロ	<i>Pluvialis fulva</i>	×				
		82	ダイゼン	<i>Pluvialis squatarola</i>	●				
		83	ハジロコチドリ	<i>Charadrius hiaticula</i>	●				
		84	コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>	●				
		85	シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>	●	●	巣立ち雛	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	準絶滅危惧種
		86	メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>	●				
		87	オオメダイチドリ	<i>Charadrius leschenaultii</i>	×				
ミヤコドリ科 セイタカシギ科 シギ科	ミヤコドリ セイタカシギ シギ	88	オオチドリ	<i>Charadrius veredus</i>	×				
		89	ミヤコドリ	<i>Haematopus ostralegus</i>	●				
		90	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i>	●			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	
		91	ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>	●				
		92	アオシギ	<i>Gallinago solitaria</i>	●				
		93	オオジョシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>	●			準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類
		94	チュウジシギ	<i>Gallinago megala</i>	●				
		95	タシギ	<i>Gallinago gallinago</i>	●				
		96	オグロシギ	<i>Limosa limosa</i>	●			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	
		97	オオソリハシシギ	<i>Limosa lapponica</i>	●				
		98	チュウシヤクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>	●				
		99	ダイシヤクシギ	<i>Numenius arquata</i>	×				
		100	ホウロクシギ	<i>Numenius madagascariensis</i>	●			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	準絶滅危惧種
		101	ツルシギ	<i>Tringa erythropus</i>	?			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	準絶滅危惧種
102	アオアシシギ	<i>Tringa nebularia</i>	●						
103	クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>	●						
104	タカブシギ	<i>Tringa glareola</i>	●			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	準絶滅危惧種		
105	キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>	●						
106	ソリハシシギ	<i>Xenus cinereus</i>	●						
107	イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	●				準絶滅危惧種		
108	キョウジョシギ	<i>Arenaria interpres</i>	●						
109	オバシギ	<i>Calidris tenuirostris</i>	●						
110	ミユビシギ	<i>Calidris alba</i>	●						
111	トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>	●						
112	ヒバリシギ	<i>Calidris subminuta</i>	●						
113	ウズラシギ	<i>Calidris acuminata</i>	●						
114	サルハマシギ	<i>Calidris ferruginea</i>	●						

目名	科名	NO.	種名	学名	利用	巢内雛・巣立ち雛(巣立ち雛には早成性鳥類の雛も含む)(調査地内での繁殖は問わない)	絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト	いしかわレッドデータブック 2020
チドリ目	シギ科	115	ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>	●		準絶滅危惧 (NT)	
		116	キリアイ	<i>Limicola falcinellus</i>	●			
		117	アカエリヒレアシシギ	<i>Phalaropus lobatus</i>	×			
	タマシギ科	118	タマシギ	<i>Rostratula benghalensis</i>	?		絶滅危惧II類 (VU)	
	カモメ科	119	ミヅツビカモメ	<i>Rissa tridactyla</i>	?			
		120	ウツカモメ	<i>Larus ridibundus</i>	●			
		121	ズグロカモメ	<i>Larus saundersi</i>	●		絶滅危惧II類 (VU)	
		122	ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i>	●			
		123	カモメ	<i>Larus canus</i>	●			
		124	シロカモメ	<i>Larus hyperboreus</i>	●			
		125	セグロカモメ	<i>Larus argentatus</i>	●			
		126	オオセグロカモメ	<i>Larus schistisagus</i>	●		準絶滅危惧 (NT)	
		127	コアジサシ	<i>Sterna albifrons</i>	×		絶滅危惧II類 (VU)	絶滅危惧I類
		128	オニアジサシ	<i>Sterna caspia</i>	●			
		129	アジサシ	<i>Sterna hirundo</i>	×			
		130	クロハラアジサシ	<i>Chlidonias hybrida</i>	●			
	ウミスズメ科	131	マダラウミスズメ	<i>Brachyramphus perdix</i>	×		情報不足 (DD)	情報不足
		132	ウミスズメ	<i>Synthliboramphus antiquus</i>	×		絶滅危惧IA類 (CR)	
		133	カンムリウミスズメ	<i>Synthliboramphus wumizusume</i>	?		絶滅危惧II類 (VU)	絶滅危惧I類
		134	ウミオウム	<i>Aethia psittacula</i>	?			
		135	ウトウ	<i>Cerorhinca monocerata</i>	×			
タカ目	ミサゴ科	136	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	●		準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧種
	タカ科	137	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	×		準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧種
		138	トビ	<i>Milvus migrans</i>	●	巢内雛・巣立ち雛		
		139	オジロワシ	<i>Haliaeetus albicilla</i>	×		絶滅危惧II類 (VU)	絶滅危惧II類
		140	チュウヒ	<i>Circus spilonotus</i>	×		絶滅危惧IB類 (EN)	絶滅危惧I類
		141	ハイイロチュウヒ	<i>Circus cyaneus</i>	●			
		142	ツミ	<i>Accipiter gularis</i>	●			準絶滅危惧種
		143	ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	●		準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧種
		144	オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	●	繁殖記録あるが雛は不明	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧種
		145	サシバ	<i>Buteo indicus</i>	●		絶滅危惧II類 (VU)	準絶滅危惧種
		146	ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	●			準絶滅危惧種
		147	ケアシノスリ	<i>Buteo lagopus</i>	×			
フクロウ目	フクロウ科	148	オオコノハズク	<i>Otus lempiji</i>	?			絶滅危惧II類
		149	コノハズク	<i>Otus sunia</i>	●			絶滅危惧II類
		150	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	●	巣立ち雛		
		151	アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>	●			
		152	トラフズク	<i>Asio otus</i>	●			
		153	コミミズク	<i>Asio flammeus</i>	●			
サイチョウ目	ヤツガシラ科	154	ヤツガシラ	<i>Upupa epops</i>	●			絶滅危惧II類

普正寺の森（金沢市）の鳥類相と種数の経年変化

目名	科名	NO.	種名	学名	利用	巢内雌・巣立ち雛には早成性鳥類の雛も含む(調査地内での繁殖は問わない)	絶滅のおそれのある野生生物の種々のリスト	いしかわレッドデータブック 2020
ブッポウソウ目	カワセミ科	155	アカシヨウビン	<i>Halcyon coromanda</i>	●			準絶滅危惧種
		156	ヤマシヨウビン	<i>Halcyon pileata</i>	●			
		157	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	●	●	巣立ち雛	
キツツキ目	ブッポウソウ科	158	ヤマセミ	<i>Megasceryle lugubris</i>	●			
		159	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis</i>	●		絶滅危惧 I B 類 (EN)	絶滅危惧 II 類
		160	アリスイ	<i>Jynx torquilla</i>	●			
		161	コガラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	●		巢内雌・巣立ち雛	
ハヤブサ目	ハヤブサ科	162	アカガラ	<i>Dendrocopos major</i>	●			
		163	アオガラ	<i>Picus awokera</i>	●			
		164	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	●			
		165	コチョウゲンボウ	<i>Falco columbarius</i>	×			
		166	チゴハヤブサ	<i>Falco subbuteo</i>	●			
		167	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	●		絶滅危惧 II 類 (VU)	準絶滅危惧種
		168	ヤイロチヨウ	<i>Pitta nympha</i>	●		絶滅危惧 I B 類 (EN)	絶滅危惧 II 類
		169	アサクラサンショウクイ	<i>Coracina melaschistos</i>	●			
		170	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	●		絶滅危惧 II 類 (VU)	
		171	コウライウグイス	<i>Oriolus chinensis</i>	●			
スズメ目	ヤイロチヨウ科	172	ハイイロチヨウ	<i>Dicrurus leucophaeus</i>	●			
		173	サンコウチヨウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	●			
		174	チゴモズ	<i>Lanius tigrinus</i>	●		巣立ち雛	絶滅危惧 I 類
		175	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	●		巢内雌・巣立ち雛	
		176	アカモズ	<i>Lanius cristatus</i>	●		巢内雌・巣立ち雛	絶滅危惧 I 類
		177	オオモズ	<i>Lanius excubitor</i>	●			
		178	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	●			
		179	オナガ	<i>Cyanopica cyanus</i>	●		巣立ち雛	
		180	コクマルガラス	<i>Corvus dauuricus</i>	×			
		181	ミヤマガラス	<i>Corvus frugilegus</i>	×			
カラス科	キクイタダキ科	182	ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	●		巢内雌・巣立ち雛	
		183	ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	●		巢内雌・巣立ち雛	
		184	クイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	●			
		185	ツリスガラ	<i>Remiz pendulinus</i>	●			
		186	コガラ	<i>Poecile montanus</i>	●			
		187	ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	●			
		188	ヒガラ	<i>Periparus ater</i>	●			
		189	シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	●		巢内雌・巣立ち雛	
		190	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	●		巣立ち雛	
		ツバメ科	ツバメ科	191	ハマヒバリ	<i>Eremophila alpestris</i>	●	
192	ショウドウツバメ			<i>Riparia riparia</i>	●			
193	ツバメ			<i>Hirundo rustica</i>	●		巣立ち雛	
194	コシアカツバメ			<i>Hirundo daurica</i>	●			絶滅危惧 II 類
195	イワツバメ			<i>Delichon dasypus</i>	●		巣立ち雛	

目名	科名	NO.	種名	学名	利用	巢内雛・巣立ち雛(巣立ち雛には早成性鳥類の雛も含む)(調査地内での繁殖は問わない)	絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト	いしかわレッドデータブック 2020
スズメ目	ヒヨドリ科	196	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	●	巣立ち雛		
	ウグイス科	197	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	●			
		198	ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	●			
	エナガ科	199	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	●	巣立ち雛		
	ムシクイ科	200	モリムシクイ	<i>Phylloscopus sibilatrix</i>	●			
		201	ムジセツカ	<i>Phylloscopus fuscatus</i>	●			
		202	カラフトムジセツカ	<i>Phylloscopus schwarzi</i>	●			
		203	カラフトムシクイ	<i>Phylloscopus proregulus</i>	●			
		204	キマユムシクイ	<i>Phylloscopus inornatus</i>	●			
		205	コムシクイ	<i>Phylloscopus borealis</i>	●			
		206	オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	●	情報不足(DD)		
		207	メボソムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodryas</i>	●			
		208	エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>	●			
		209	センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	●			
	メジロ科	210	チヨウセンメジロ	<i>Zosterops erythropleurus</i>	●			
		211	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	●	繁殖記録あるが雛は不明		
	センニュウ科	212	マキノセンニュウ	<i>Locustella lanceolata</i>	●		準絶滅危惧 (NT)	
		213	シマセンニュウ	<i>Locustella ochotensis</i>	●			
		214	エゾセンニュウ	<i>Locustella fasciolata</i>	●			
	ヨシキリ科	215	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>	●	巣立ち雛		準絶滅危惧種
		216	コヨシキリ	<i>Acrocephalus bistrigiceps</i>	●			準絶滅危惧種
	セツカ科	217	セツカ	<i>Cisticola juncidis</i>	●			
	レンジャク科	218	キレンジャク	<i>Bombycilla garrulus</i>	●			
		219	ヒレンジャク	<i>Bombycilla japonica</i>	●			
	ゴジュウカラ科	220	ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>	●			
	キバシリ科	221	キバシリ	<i>Certhia familiaris</i>	●			情報不足
	ミンサザイ科	222	ミンサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	●			
	ムクドリ科	223	ギンムクドリ	<i>Spodiopsar sericeus</i>	●			
		224	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	●	巣立ち雛		
		225	シベリアムクドリ	<i>Agropsar sturninus</i>	●			
		226	コムクドリ	<i>Agropsar philippensis</i>	●	巣立ち雛		
		227	ホシムクドリ		●			
	カワガラス科	228	カワガラス	<i>Cinclus pallasi</i>	?			
	ヒタキ科	229	マミジロ	<i>Zoothera sibirica</i>	●			
		230	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>	●			
		231	カラアハハラ	<i>Turdus hortulorum</i>	●			
		232	クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	●	巣内雛・巣立ち雛		準絶滅危惧種
		233	クロウタドリ	<i>Turdus merula</i>	●			
		234	マミチヤジナイ	<i>Turdus obscurus</i>	●			
		235	シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	●			
		236	アカハラ	<i>Turdus chrysolus</i>	●			
		237	ノドグロツグミ	<i>Turdus ruficollis</i>	●			

普正寺の森（金沢市）の鳥類相と種数の経年変化

目名	科名	NO.	種名	学名	利用	巢内雛・巣立ち雛(調雛も含む) (調査地内での繁殖は問わない)	絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト	いしかわレッドデータブック 2020
スズメ目	ヒタキ科	238	ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	●			
		239	コマドリ	<i>Luscinia akahige</i>	●			
		240	ノゴマ	<i>Luscinia calliope</i>	●			
		241	コルリ	<i>Luscinia cyane</i>	●			
		242	シマゴマ	<i>Luscinia sibilans</i>	●			
		243	ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>	●			
		244	ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureoreus</i>	●			
		245	ノビタキ	<i>Saxicola torquatus</i>	●			
		246	インホヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	●		巣立ち雛	
		247	ヒメインホヨ	<i>Monticola gularis</i>	●			
		248	エゾビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>	●			
		249	サメビタキ	<i>Muscicapa sibirica</i>	●			
		250	コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	●		巣立ち雛	
		251	マミジロキビタキ	<i>Ficedula zanthopygia</i>	●			
		252	キビタキ	<i>Ficedula narsissina</i>	●			
		253	ムギマキ	<i>Ficedula mugimaki</i>	●			
		254	オジロビタキ	<i>Ficedula albicilla</i>	●			
		255	オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	●			
		256	ヤマヒバリ	<i>Prunella montanella</i>	●			
		257	カヤクグリ	<i>Prunella rubida</i>	●			
		258	ニユウナイスズメ	<i>Passer rutilans</i>	?			
		259	スズメ	<i>Passer montanus</i>	●		巢内雛・巣立ち雛	
		260	イロミセキレイ	<i>Dendroanthus indicus</i>	●			
		261	ツメナガセキレイ	<i>Motacilla flava</i>	●			
		262	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	●			
		263	ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	●		巣立ち雛	
		264	セゾロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	●		巣立ち雛	
265	ヨーロッパビズイ	<i>Anthus trivialis</i>	●					
266	ビズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	●					
267	タヒバリ	<i>Anthus rubescens</i>	●					
268	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	●					
269	カラワヒワ	<i>Chloris sinica</i>	●					
270	マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	●		巣立ち雛			
271	ベニヒワ	<i>Carduelis flammea</i>	●					
272	ハギマシコ	<i>Leucosticte arctoa</i>	●					
273	ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	●					
274	アカマシコ	<i>Carpodacus erythrinus</i>	●					
275	オオマシコ	<i>Carpodacus roseus</i>	●					
276	ギンザンマシコ	<i>Pinicola enucleator</i>	●					
277	イスカ	<i>Loxia curvirostra</i>	●					
278	ナキイスカ	<i>Loxia leucoptera</i>	●					
279	ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	●					

目名	科名	NO.	種名	学名	利用	絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト	いしかわレッドデータブック 2020
スズメ目	アトリ科	280	シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	●	巢内雛・巣立ち雛(巣立ち雛には早成性鳥類の雛も含む)(調査地内での繁殖は問わない)	
		281	コイカル	<i>Eophona migratoria</i>	●		
		282	イカル	<i>Eophona personata</i>	●		
	ツメナガホオジロ科	283	ツメナガホオジロ	<i>Calcarius lapponicus</i>	?		
		284	ユキホオジロ	<i>Plectrophenax nivalis</i>	●		
	ホオジロ科	285	シラガホオジロ	<i>Emberiza leucocephalos</i>	●		
		286	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	●	巢内雛・巣立ち雛	
		287	シロハラホオジロ	<i>Emberiza tristrami</i>	●		
		288	ホオアカ	<i>Emberiza fucata</i>	●		準絶滅危惧種
		289	コホオアカ	<i>Emberiza pusilla</i>	●		
		290	キマユホオジロ	<i>Emberiza chrysophrys</i>	●		
		291	カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>	●		
		292	ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>	●		
		293	シマアオジ	<i>Emberiza aureola</i>	●	絶滅危惧 IA 類 (CR)	
		294	シマノジロ	<i>Emberiza rutila</i>	●		
		295	ノジロ	<i>Emberiza sulphurata</i>	●	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧 II 類
		296	アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	●		
		297	クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>	●		
		298	オオジョユリン	<i>Emberiza schoeniclus</i>	●		

表2. 普正寺の森における鳥類のうち外来種等の種名リスト。
 利用欄は、普正寺の森の樹木・地上・建物・電線等(普正寺浜・池等を含み、日本海・河川・防波堤等は除く)に止まった種。●利用あり

目名	科名	NO.	種名	学名	利用	備考
カモ目	カモ科	1	コブハクチョウ	<i>Cygnus olor</i>	●	
		2	アヒル	<i>Anas platyrhynchos var. domestica</i>	●	家禽
ハト目	ハト科	3	カワラバト(ドバト)	<i>Columba livia</i>	●	
スズメ目	カラス科	4	カササギ	<i>Pica pica</i>	●	
	チメドリ科	5	ソウシチヨウ	<i>Leiothrix lutea</i>	●	
	ヒヨドリ科	6	シロガシラ	<i>Pycnonotus sinensis</i>	●	
	カエデチヨウ科	7	ベニスズメ	<i>Amandava amandava</i>	●	

普正寺の森（金沢市）の鳥類相と種数の経年変化

NO.	種名	年												備考			
		1990	1991	1992	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008				
152	トラフズク															2019年3月31日1羽※	
153	コミミズク	★	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1992年2月11日1羽・2007年3月3日1羽・2019年10月26日1羽
154	ヤツガシラ	※	○	○	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	2005年3月29日2羽※・2008年4月5日2羽※・2013年3月28日3羽※
155	アカシヨウビン		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1993年5月17日・2002年5月21日1羽・2008年7月15日1羽
156	ヤマシヨウビン																1989年5月1羽※・1996年6月24日1羽※
157	カワセミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1990年7月5日6羽※・1990年7月12日4羽・2008年7月13日4羽
158	ヤマセミ	※															1993年5月1羽※・2011年4月3日1羽・2015年5月2日1羽※
159	ブツボウソウ	※	○	○	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	1994年5月14日1羽・2000年5月6日1羽・2009年6月13日2羽※
160	アリスイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1991年11月2日1羽・2012年10月4日2羽・2013年10月8日2羽
161	コガラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2006年10月20日3羽・2007年2月24日3羽・2007年5月5日3羽
162	アカガラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2006年11月19日3羽・2010年10月11日3羽※・2017年12月23日3羽※
163	アオガラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2003年2月27日3羽・2007年1月2日2羽・2011年3月29日2羽
164	チョウゲンボウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2000年9月13日2羽・2010年10月11日3羽・2013年10月3日3羽
165	コチョウゲンボウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2000年3月5日1羽・2006年11月4日1羽・2015年11月12日1羽
166	チゴハヤブサ	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	2014年10月16日1羽・2015年5月5日2羽※・2015年10月4日1羽
167	ハヤブサ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1991年1月19日2羽・1994年3月6日2羽・2013年2月2日2羽
168	ハイロチョウ																2003年5月14日1羽※・2010年5月30日1羽・2021年5月23日2羽※
169	アサクラサンショウクイ				★												2009年11月7～8日1羽※
170	サンショウクイ	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1993年5月14日6羽※・1997年9月28日4羽・2011年4月30日3羽※
171	コウライウグイス				※												2000年6月11日1羽※・2004年5月26日2羽※・2017年9月23日1羽
172	ハイイロオウチュウ																2014年10月12, 14日1羽※
173	サンコウチョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2001年5月14日2羽※・2012年5月13日3羽※・2017年5月8日3羽※
174	チゴモズ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1991年6月29日3羽・1995年6月1日4羽・1998年7月23日4羽※
175	モズ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1992年10月17日1羽・1992年10月20日9羽・1993年10月21日10羽
176	アカモズ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1989年8月6日10羽・1992年7月26日5羽・2014年5月24日1羽
177	オオモズ																
178	カケス																2004年10月31日1羽※・2006年10月15日1羽・2006年10月17日9羽
179	オナガ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2003年3月6日28羽・2006年11月18日23羽・2007年11月4日41羽
180	コクマルガラス																2004年1月25日1羽・2015年3月7日5羽※
181	ミヤマガラス	★	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2004年1月25日55羽・2006年11月4日81羽・2008年10月31日34羽
182	ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1992年10月16日39羽・2005年10月16日23羽・2019年11月4日75羽
183	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2005年9月24日7羽・2007年4月29日11羽
184	クイタダキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2005年10月25日13羽・2008年10月27日17羽・2012年10月13日10羽
185	ツリスガラ	★															1996年4月29日2羽※
186	コガラ	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2006年11月21日3羽※・2007年1月2日1羽・2007年4月15日1羽
187	ヤマガラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2006年11月25日5羽・2006年12月23日8羽・2013年1月1日4羽
188	ヒガラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1995年4月28日13羽・1997年1月26日9羽・2012年10月14日10羽+※
189	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1994年2月27日41羽・2002年1月3日50羽+・2002年10月3日26羽
190	ヒバリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1994年10月22日5羽・2010年4月7日3羽・2018年5月26日3羽
191	ハマヒバリ																2004年2月19日1羽※・2012年2月12日2羽

NO.	種名	年	備考
1990			
1991			
1992			
1993			
1994			
1995			
1996			
1997			
1998			
1999			
2000			
2001			
2002			
2003			
2004			
2005			
2006			
2007			
2008			
2009			
2010			
2011			
2012			
2013			
2014			
2015			
2016			
2017			
2018			
2019			
2020			
2021			
2022			
272	ハギマシコ	○	※ 1990年9月24日1羽・1995年5月4日1羽※
273	ベニマシコ	○	○ 1998年2月22日4羽・1999年1月19日5羽※・2018年11月5日3羽
274	アカマシコ	☆	※ 1995年2月4日1羽・2017年12月8日1羽※
275	オオマシコ	○	○ 2009年1月30日2羽※・2020年3月6～13日雄成鳥1羽
276	ギンザンマシコ	☆	1991年4月4日6羽
277	イヌカ	※	※ 1990年11月50羽※・2013年11月3日300羽+※・2017年10月28日40羽+※
278	ナキイヌカ	★	2014年10月30日1羽※
279	ウン	○	○ 2006年11月26日5羽・2013年2月14日5羽※・2014年11月14日10羽※
280	シメ	○	○ 1991年2月17日40羽・2008年1月3日170羽+・2020年1月25日60羽+
281	コイカル	○	※ 1993年5月29～30日雄1羽・1996年7月6日2羽※・1997年5月6～7日雄1羽
282	イカル	○	○ 2007年3月17日10羽※・2010年11月6日10羽・2020年11月3日5羽※
283	ツメナガホオジロ		
284	ユキホオジロ		
285	シラガホオジロ	★	○ 2011年10月18日雌1羽※・2012年10月9日1羽
286	ホオジロ	○	○ 1995年4月15日39羽・1997年3月22日40羽・1998年3月22日35羽
287	シロハラホオジロ	★	○ 2006年5月3日5羽※・2014年5月10日雄3羽雌1羽※・2019年4月29日雄2羽
288	ホオアカ	○	○ 2008年11月29日1羽・2010年11月7日1羽※・2016年2月18日1羽
289	コホオアカ	○	※ 1997年3月1日1羽・2008年9月28日1羽・2011年9月25日1羽
290	キヌホオアカ	★	※ 2004年4月24日2羽※・2011年5月4日1羽※・2014年5月13-14日1羽※
291	カシラダカ	○	○ 1991年1月27日50羽+・2003年1月9日30羽+※・2005年3月7日100羽+
292	ミヤマホオジロ	○	○ 1992年12月16日20羽+・1993年3月13日15羽・1998年1月10日18羽
293	シマアオジ	○	2005年4月24日雌1羽
294	シマノジロ	※	※ 2012年12月2日1羽※・2014年5月11日1羽・2018年5月15日1羽※
295	ノジロ	○	○ 1993年5月12日2羽・2007年4月15日1羽・2012年5月8日1羽
296	アオジ	○	○ 2008年1月19日10羽・2008年4月27日30羽+
297	クロジ	○	○ 1993年4月18日3羽・1995年5月3日4羽・1995年5月6日6羽
298	オオジュリン	○	○ 1992年3月21日5羽・1997年3月23日1羽・2016年3月13日6羽
142	野鳥年間種数(著者観察)	18	124
138	野鳥年間種数(著者以外の観察)	5	133
152	野鳥年間種数(合計)	12	140
151		15	136
144		11	133
157		31	126
149		19	130
154		14	140
136		12	124
140		19	121
142		22	120
134		19	115
133		16	117
132		20	112
144		23	121
146		17	129
165		18	147
165		11	154
153		14	139
164		25	139
166		25	141
166		25	144
171		27	144
166		25	141
169		29	140
156		21	135
175		36	139
166		28	138
153		24	129
158		27	131
151		21	130
166		27	139

表6. 普正寺の森における野鳥の利用種1991～2004年と2005～2021年の種数比較.

目名	利用種の種数		1991～2004年の利用種の種数				2005～2021年の利用種の種数				(e/a)-1	f-b	g-c	h-d
	種数	比率	平均(a) 標準偏差 最小(b) 最大(c) 比率(d)		平均(e) 標準偏差 最小(f) 最大(g) 比率(h)									
			平均	標準偏差	最小	最大	平均	標準偏差	最小	最大				
キジ目	1	0.4%	1.0	0.0	1	0.9%	1.0	0.0	1	0.8%	0	0.0%	0	-0.1%
カモ目	20	8.3%	11.1	1.5	9	9.7%	10.3	1.0	9	8.2%	0	-7.2%	-2	-1.5%
カイツブリ目	2	0.8%	0.1	0.3	0	0.1%	0.7	0.7	0	0.5%	0	600.0%	1	0.5%
ハト目	3	1.3%	2.0	0.0	2	1.7%	2.3	0.4	2	1.8%	0	15.0%	1	0.0%
アビ目	0	0.0%	0.0	0.0	0	0.0%	0.0	0.0	0	0.0%	-	-	-	-
ミズナギドリ目	0	0.0%	0.0	0.0	0	0.0%	0.0	0.0	0	0.0%	-	-	-	-
カツオドリ目	1	0.4%	0.2	0.4	0	0.2%	0.6	0.5	0	0.4%	0	200.0%	0	0.3%
ペリカン目	11	4.6%	5.1	0.4	5	4.5%	5.1	1.0	4	4.0%	-1	0.0%	1	-0.4%
ツル目	3	1.3%	0.1	0.4	0	0.1%	1.4	0.9	0	1.1%	0	1300.0%	2	1.0%
カクコウ目	6	2.5%	3.9	0.3	3	3.4%	4.1	0.3	4	3.2%	1	5.1%	1	-0.2%
ヨタカ目	1	0.4%	0.4	0.5	0	0.3%	0.1	0.3	0	0.1%	0	-75.0%	0	-0.3%
アマツバメ目	0	0.0%	0.0	0.0	0	0.0%	0.0	0.0	0	0.0%	-	-	-	-
チドリ目	40	16.7%	8.4	1.8	5	7.3%	10.3	3.0	5	8.2%	0	22.6%	5	0.9%
タカ目	8	3.3%	4.7	0.8	4	4.1%	5.4	0.6	5	4.3%	1	14.9%	1	0.2%
フクロウ目	5	2.1%	1.4	0.7	0	1.2%	0.9	0.9	0	0.7%	0	-35.7%	0	-0.5%
サイチョウ目	1	0.4%	0.6	0.5	0	0.5%	0.9	0.3	0	0.7%	0	50.0%	0	0.2%
ブッポウソウ目	5	2.1%	1.7	0.7	1	1.5%	1.9	0.4	1	1.5%	0	11.8%	0	0.1%
キツツキ目	4	1.7%	3.2	0.4	3	2.8%	3.8	0.4	3	3.0%	0	18.8%	0	0.2%
ハヤブサ目	3	1.3%	0.9	0.4	0	0.8%	1.4	0.5	1	1.1%	1	55.6%	1	0.4%
スズメ目	126	52.5%	69.4	4.1	65	60.7%	75.3	4.5	67	60.1%	2	8.5%	5	-0.6%
全種	240	100.0%	114.3	6.9	103	100.0%	125.2	6.8	115	100.0%	12	9.5%	13	0.0%